

西淀川記憶あつめ隊

Vol.3

あおぞら苑の利用者である浜田しづゑさんから昔の大和田についてお話を伺いました。

2010年5月31日
聞き取り



浜田 しづゑさん

淡路島から大阪へ

浜田さんは1923(大正12)年、兵庫県南あわじ市旧・西淡町、松帆村)生まれで、実家は農家。米、小麦、スイカ、サツマイモを作っていました。真如実科高等女学校(現・兵庫県立三原高校)で裁縫を習い、卒業して1年後、満19歳で結婚します。夫は遠縁にあたる陸軍の職業

軍人でした。結婚後すぐ大阪に出てきました。約1年後、夫はスマトラへ出兵してしまつたので、しづゑさんは長男とともに淡路島へ戻りました。昭和22(1947)年、夫がスマトラから復員してきたので、塩干屋を営む夫の兄を頼つて大阪市此花区伝法へと移ります。

大船市場で乾物屋を開業

1950(昭和25)年ごろ、伝法から西淀川へ移住して、大和田中央公園のそばにあった大船市場ができるのと、乾物屋「つばや」を開業しました。当時



右の住宅群は大船市場があった場所です。左手は大和田中央公園。

は野田の中央市場まで仕入れに行っていたそうです。市場は近くに大型スーパーができて商売が厳しくなり、腰を悪くしたこともあり、62歳のとき(1989年)店をたたきました。現在は、

大船市場はありません。街の様子はずいぶんと違つたのだなとお話をうかがっていて思いました。

一番困つたのは水の被害

日々の暮らしについては、大和

田に越して来たとき、まだガスは通つておらず、ガスが通るまでへっついさん(かまど)で米を炊いていたそうです。乾物屋をしていた事もあり、塩干の入っていた木箱を燃料にしていたので、薪に困つたことはなく、近所にも分けてあげていました。水道はありませんが、水道管が細く、水の出が悪かったそうです。近所に米を洗わせてもらい

に行ったりもしたくらい、近所と距離が近い生活をしていました。ガスが通ると同時に水道管も太くなり、便利になりました。

一番困つたことは水の被害でした。大和田の抽水場(ポンプ場)は小さく、冠水や洪水がよく起こりました。大野に抽水場が出来てから冠水することなく困らなくなりました。1961(昭和36年)の第2室戸台風のときは家で避難していましたが、水につかつた畳を処分するのが大変だったこと、娘さんが学校から舟で帰ってきたことを覚えていました。あとは、淀川通を走る市バスが一時廃止になったときに、近所の人みんなで署名をして復活したことを話してもらいました。

波乱万丈の人生を、生き抜く強さを教えてもらったように思いました。大船市場ことを覚えてる人、写真を持っているよという人がいればぜひご連絡下さいね。

林